

JENESYS2017「日 ASEAN 学生会議」の記録

対象国：日本，ASEAN10 か国

プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2017」の一環として、ASEAN10 か国より大学生 120 名が 2017 年 9 月 19 日に訪日し、日本の大学生（12 名）を交えた 7 泊 8 日の「日 ASEAN 学生会議」のプログラムに参加しました。

一行は、「平和と安定のために日本と ASEAN 諸国の青年ができること」を共通のテーマに、日本と ASEAN 諸国に共通する諸課題から「自然災害」、「経済開発」、「環境問題」、「地域における社会活動」を取り上げ、課題別グループに分かれ、都内及び地方における関連講義の聴講、関連施設の視察、日 ASEAN 学生会議（ワークショップ）を行いました。

「自然災害」と「経済開発」のグループは、岩手県と宮城県を訪問し、震災からの社会的・経済的復興の取り組みに直接触れる機会を得ました。「環境問題」のグループは、かつての公害被害から再生した北九州市を訪問し、地元の清掃ボランティア活動に参加するなど、日本の環境保護に対する意識の高さを実体験しました。「地域における社会活動」のグループは、熊本県の被災地域を訪問し、草の根地域活動が震災復興の基盤となっていることを学びました。

本プログラムを通じて、将来を担う日本及び ASEAN 諸国の若者は寝食を共にし、各課題に対して視察や意見交換を行うことで、自身の能力や可能性に気づき社会貢献の意識を醸成し、参加者同士の友情を育みました。また、各々の関心事項や発見・体験について SNS を通じて対外発信を行いました。

帰国前の成果報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表し、グループ合同で「行動宣言～平和と安定のために日本と ASEAN 諸国の青年ができること～」を作成し、日本外務省および ASEAN 事務局に提出しました。

【参加国・人数】11 か国，132 名

ASEAN 学生：120 名（インドネシア 12 名，カンボジア 12 名，シンガポール 12 名，タイ 12 名，フィリピン 12 名，ブルネイ 12 名，ベトナム 12 名，マレーシア 12 名，ミャンマー 12 名，ラオス 12 名 ※50 音順）

日本人学生：12 名

【訪問地】5 地域

東京都（全員），岩手県（33 名），宮城県（34 名），福岡県（32 名），熊本県（33 名）

2. 日程

9月18日(月)/9月19日(火) 訪日団：羽田空港または成田国際空港より入国

日本人学生：東京都集合

9月19日(火) 【オリエンテーション】、【ワークショップの説明】

9月20日(水) 【日本理解講義／基調講演】

明治大学, SIMA 国際経営研究所, 日本福祉大学

【関連施設視察】、【課題別リサーチ】

9月21日(木)～9月24日(日)

4つの課題別グループに分かれ、

グループA(自然災害を考える)は、岩手県を訪問

グループB(経済開発を考える)は、宮城県を訪問

グループC(環境問題を考える)は、福岡県を訪問

グループD(地域における社会活動を考える)は、熊本県を訪問

(1) グループA(自然災害を考える)：岩手県

9月21日(木) 【地方自治体表敬訪問】【地域概要講義】久慈市

【関連施設視察】久慈地下水族科学館もぐらんぴあ、

9月22日(金) 【関連施設視察】久慈市横沼漁港(震災学習, 漁業体験), 東日本
大震災モニュメント「ケルン・鎮魂の鐘と光」

【ホームステイ対面式】

9月23日(土) 【ホームステイ】

【日ASEAN 学生会議(ワークショップ①)】

【ホームステイ歓送会】

(2) グループB(経済開発を考える)：宮城県

9月21日(木) 【地方自治体表敬訪問】【地域概要講義】仙台市

9月22日(金) 【関連施設視察】みやぎ復興パーク(産官学連携)

【関連施設視察】株式会社ジェーエーシー(JAC)(リサイクル業)

9月23日(土) 【歴史的建造物視察】瑞巖寺, 五大堂, 松島散策

【日ASEAN 学生会議(ワークショップ①)】

(3) グループC(環境問題を考える)：福岡県

9月21日(木) 【地方自治体表敬訪問】【地域概要講義】北九州市役所

【関係者との交流・意見交換】特定非営利活動法人 green bird(街
のおそうじ：小倉)

9月22日(金) 【関連施設視察】北九州環境ミュージアム, 北九州市上下水道局
日明浄化センター

9月23日(土) 【歴史的建造物視察】小倉城, 八坂神社

【日本文化体験】小倉城庭園参観, 茶道

【日ASEAN 学生会議(ワークショップ①)】

(4) グループD(地域における社会活動を考える)：熊本県

- 9月21日(木) 【地方自治体表敬訪問】 【地域概要講義】 熊本県庁（福祉教育，高齢化社会への取組の変化）
 【日本文化体験】 茶道
- 9月22日(金) 【関連施設視察】 【ボランティア組織の体制等の説明】
 熊本市国際交流会館
 【関連地域視察】 益城町
- 9月23日(土) 【歴史的建造物視察】 熊本城
 【日本文化体験】 水前寺成趣園
 【日 ASEAN 学生会議(ワークショップ①)】
- 全グループ：地方プログラム終了後，9月24日に東京へ移動
- 9月24日(日) 【日 ASEAN 学生会議(ワークショップ②)】
- 9月25日(月) 【日 ASEAN 学生会議(ワークショップ③)】
 【表敬訪問】 堀井巖外務大臣政務官
http://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/rp/page3_002252.html
 【日 ASEAN 学生会議(成果報告会)】 【歓送会】
- 9月25日(月) / 9月26日(火) 羽田空港または成田国際空港より出国

3. プログラム記録写真

(全グループ：東京都訪問)

	
9/20 【日本理解講義／基調講演】	9/25 学生代表による「行動宣言」の提出
	
9/25 【表敬訪問】 堀井巖外務大臣政務官	

	
9/25 【日 ASEAN 学生会議(成果報告会)】	9/25 【日 ASEAN 学生会議(成果報告会)】
(グループA (自然災害を考える): 岩手県訪問)	
	
9/21 【地方自治体表敬訪問】久慈市	9/21 【関連施設視察】久慈地下水族科学館 もぐらんぴあ
	
9/22 【関連施設視察】久慈市横沼漁港	9/22 【関連施設視察】東日本大震災モニ メント「ケルン・鎮魂鐘と光」
	
9/23 【日 ASEAN 学生会議(ワークショップ ①)】	9/23 【ホームステイ歓送会】

(グループB (経済開発を考える): 宮城県訪問)



9/21 【地域概要講義】仙台市



9/21 【関連施設視察】みやぎ復興パーク



9/21 【関連施設視察】株式会社ジェーエーシー (JAC)



9/21 【関連施設視察】株式会社ジェーエーシー (JAC)



9/23 【歴史的建造物視察】五大堂



9/23 【日 ASEAN 学生会議(ワークショップ①)】

(グループC (環境問題を考える): 福岡県)



9/21 【関係者との交流・意見交換】特定非営利活動法人 green bird(街のおそうじ: 小倉)



9/21 【関係者との交流・意見交換】特定非営利活動法人 green bird(街のおそうじ: 小倉)

	
9/22【関連施設視察】北九州環境ミュージアム	9/22【関連施設視察】北九州市上下水局日 明浄化センター
	
9/23【歴史的建造物視察】小倉城	9/23【日本文化体験】小倉城庭園

(グループD (地域における社会活動を考える): 熊本県訪問)

	
9/21【地域概要講義】熊本県庁	9/22【関連施設の視察】【ボランティア組織の体制等の説明】熊本市国際交流会館

	
9/22【関連地域の視察】益城町	9/23【歴史的建造物視察】熊本城
	
9/23【地域住民・企業関係者との交流会】	9/23【日本文化体験】水前寺成趣園

4. 参加者の感想（抜粋）

（グループA（自然災害を考える）：岩手県訪問）

◆ インドネシア人学生

企業や政府の方に直接会えたので、参加することができて大変良かったと思いました。最も印象的だったことは、日本企業や政府がルールに則り、（災害）対策についてさらに学びたいと思っている外国人にも対応してくれるということです。日本企業や日本政府は、日本人であるかどうかを問わず全ての人に対して門戸を開いている、と言えます。

◆ タイ人学生

JENESYS2017のプログラムで5日間を日本で過ごしたが、数多くの印象深い新しい経験をしました。

まず講義では、興味深い情報をたくさん学びました。限られた時間の中で、講師は必要な情報をすべて盛り込む努力をしてくれました。

また、交流という側面では、ASEAN諸国の学生だけでなく日本の学生との混成で編成されたグループと行動を共にすることにより、たくさんの良い経験をしました。ASEAN諸国や日本の文化について学びましたし、多くの話題に対する意見の交換をすることにより、基本的な考え方について理解することが出来ました。

◆ 日本人学生

ホームステイは短い時間ではありましたが、参加者は日本文化を肌で感じる事ができ良かったと思います。温かいホームステイの家族に迎え入れてもらい、楽しい一日を過ごすことが出来ました。

また、津波に関する講義では、何よりも高いところに逃げる事が一番大切だと学びました。実際にご家族を津波でなくされた方からお話を聞く機会もあり、津波がいかに怖いかということ学びました。

(グループB (経済開発を考える) : 宮城県訪問)

◆ ブルネイ人学生

プログラムではASEANと日本の協力の展望、仙台市の国際関係、みやぎ復興パークでの新世代先端移動システム、JACのリサイクル及び資源の再利用の取り組みに関する講義に参加しました。どの講義も説明が明快でよく理解することが出来ました。学校交流では、私が知りたかった伊達正宗の歴史、環境や文化などを学べただけでなく、ASEAN学生との親睦を深める助けとなりました。この経験は、自信やリーダーシップ、知識を与えてくれ、国に戻った時に自分たちのスキルを高めてくれることでしょう。

JAC訪問では廃棄物処理をどのように再利用するかを説明するだけでなく、実際にどのように利用されるのかを見せてくれました。みやぎ復興パークではガソリンではなく電池で動くピラスという車に試乗できました。文化体験や日本の食事堪能し、神社仏閣では神社での作法や仏教と神道について学ぶことができ、とても興味深かったです。折り紙を学び、紙が飾り物を作ったり、子供たちを楽しませたり、伝統を次の世代に伝える役割として再利用出来ることを知りました。これは、緑を守る一つの方法だと感じました。また日本食の手の込んだ盛り付けはおもてなしの心があり、また、どの料理もとてもヘルシーでした。そして、食事制限のある人にもとても良く配慮されていました。日本の滞在は有意義で将来、またわくわくする旅をしたいと思います。

◆ ミャンマー人学生

どの講義も有意義で、限られた時間の中で詳細な内容が説明されました。みやぎ復興パークでは創造的革新的技術を学び JAC リサイクル会社ではリサイクル製品の処理方法や社会で効果的に再利用できるように革新的な方法で製品を作成していました。とても興味深かったです。

また日本人は活発で一生懸命仕事に従事していました。日本のごみ回収も効率的で他国では見られないことです。喫煙者用の場所も設けられていました。伝統文化の継承には大変感銘を受けました。このプログラムを通じて日本理解、文化、経済の知識を深めることが出来ました。

◆ 日本人学生

ASEAN学生たちと様々な問題について話し合ったことで、自分自身の視野を広げることが出来ました。日本についてもっと知識を増やし、また、ASEANや世界で現在起っている問題にもっと目を向ける必要があると感じました。

（グループC（環境問題を考える）：福岡県訪問）

◆ フィリピン人学生

プログラム全体を楽しむことが出来ました。例えば、グリーンバードのメンバーと会い、一緒にボランティア活動ができたことは素晴らしい経験でした。日本には実際は汚い所もあり、ボランティアがゴミを集めて町をきれいにしていることに気付く事ができました。自分の町でも同じような活動ができるのではないかと、という考えが生まれました。環境に優しい環境保全技術、再生可能で環境への負担が少ない材料や家、そして、北九州がどのようにしてグレーシティからグリーンシティになったかを知ることができました。どうすれば公害の町が環境の町になるのか分かりました。自国の事やその現状を考えた時、希望が持てました。また、町をより良くするために市民がイニシアチブを取ったり協働したりしたことに感心しました。

テーマリサーチではゴミ焼却が暖房エネルギー等に使われていることを学びました。焼却灰も再生可能材料として使うことができ、その過程を学ぶことは大変興味深いことでした。

◆ ラオス人学生

プログラムを通して日本も間違いを犯し、失敗から学んだのだと知ることができました。この5日間に、小倉城庭園のような日本の文化に触れられる多くの場所を訪れました。時代を超えて受け継がれている茶道の伝統も学びました。茶道の場で着ていた衣服は日本独自の着物でした。

私の国にはない近代的建物を見た時は興奮しました。何故日本の交通はうまく管理され、渋滞を回避できるのか、不思議に感じる事がたくさんありました。私の国ではラッシュ時には家から大学まで2時間もかかるからです。私の国の設計はまだ良くありません。

今後各国が国の発展を考えるのであれば、適切な国造りをするために日本を見習う事ができると思います。

◆ 日本人学生

環境問題に関する講義を通して、日本政府、企業、そして市民が一丸となって問題解決に取り組む必要性を感じました。

水道局の視察では、日本の技術がいかにうまく機能しているかを知りました。エコや資源の分野において、日本はたくさんの知識や技術を持っているので、ASEAN や世界のためにその技術を生かすことが出来ると思いました。

（グループD（地域における社会活動を考える）：熊本県訪問）

◆ ベトナム人学生

熊本大学の留学生たちはとても親しみやすく、私たちをもてなしてくれました。震災の時の経験談を話してくれ、災害時の適切な行動についてアドバイスしてくれました。とても参考になりました。また、学生の自治組織として、KEEP の活動もまた、とても助けとなっていることが分かりました。

講義は大変興味深く、面白い内容でした。トピックも自分たちが知りたい内容で、参考になりました。

◆ タイ人学生

日本は、社会活動のマネジメントスキルが高く、コミュニティーの社会活動を学ぶのには最適の国だと思います。ボランティア精神に満ちあふれ、ボランティア活動に参加している人たちから講義を聞くことができたのは、大変有意義でした。

震災後、熊本県と地域の民間企業が被災者に対する人道的支援を優先し、必需品の援助だけでなく、被災者が安心して暮らせるように支えてあげ、自立へと促していたことに感銘を受けました。一方で、私の国ではまだ、自然災害に対する備えができていません。私は日本で多くの事を学び、自分の国のコミュニティーを助けたいと思います。

◆ 日本人学生

基調講演の講義を通し、日本の農村集落について知ることができ、今までとは違う物の見方ができるようになりました。熊本県庁訪問では、熊本地震後のボランティア活動を振り返ることで知り得た知見が紹介され、日本のボランティア活動の真の在り方を考えるきっかけとなりました。大変有意義な経験でした。

また、ASEAN の学生たちの高度なディスカッションのスキルが印象的でした。彼らに教えてもらうことが多く、自分自身の能力を更に向上させるべきだと思いました。

5. 受入れ側の感想

◆ 自治体関係者

（参加者皆さんの）真剣に講義を聴いている姿と、（訪日学生の）人懐っこい人柄が印象的でした。「浴衣を楽しんで下さい。」言った言葉に大きく反応されていたので驚きました。

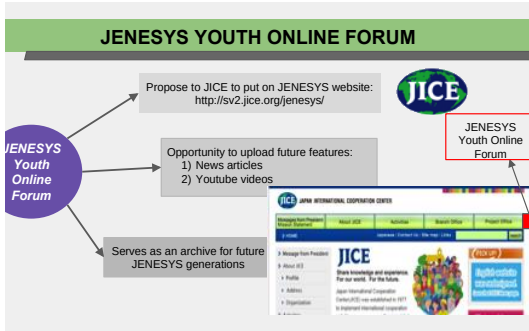
◆ 受入機関関係者

全体的にとってもいい雰囲気が進めることができました。これは参加者の皆様のフレンドリーで礼儀正しい姿勢によるものだったと思います。今回の交流は、私たちが日ごろ行っている清掃の活動を参加者の皆様に体験していただくことで、活動の意義や楽しさを共有させていただける機会がとれて大変嬉しく思っています。参加者の皆様がどのように感じたのか、また、その後の反応を知りたいと思いました。

6. 参加者の対外発信

 Day 4-5: arrival at Kuji City in Iwate Prefecture, visit to the mayor's office, and the Underground Aquarium (Moguranpia) Kuji City is known to be one of the areas that sustained extreme damage from the 2011 disaster. The tsunami had directly hit the city. This destroyed the fisherfolk's boats, dismantled many homes, and took several lives. Mogura... 続きを読む	 Day-4 We visited the Miyagi Reconstruction Park which is a base for the recovery of manufacturers affected by the Great East Japan Earthquake. We also visited the Japan Advance Corporation Co., Ltd, a recycling company and got to observe how they recycle plastic waste. #JICE #JENESYS2017 #JENESYS17PH2 #Japan #Philippines #NYCPipinas
プログラム 4～5 日目についての発信 (Facebook) 岩手県久慈市に到着し、市長表敬と地下水族科学館もぐらんぴあを訪問しました。	みやぎ復興パークについての発信 (Facebook) 東日本大震災の影響を受けた製造業者の復興拠点であるみやぎ復興パークを訪問しました。株式会社ジェーエシーではプラスチックごみがどのように再利用されるかを見学しました。
JENESYS 2017 Kita-Kyushu (Day 4) September 24, 2017 Dave Ryan Mikhail Go  The Environmental Committee delegates pose for a group picture before the Environment Museum lecture begins. KITA-KYUSHU, FUKUOKA, Japan - Last September 22, 2017, the delegates had a trip to the Kitakyushu Environment Museum and the Hiagari Sewage Treatment Plant. During their trip to the Kitakyushu Environment Museum, the delegates learned about how Kitakyushu became a thriving green city fostering green growth and boasting environmentally friendly technology (the city used to be a very polluted and dirty city in the 1960s). Mr. Mukai led the Environmental Committee delegates to the different parts of the museum where they saw how citizens' groups, such as women's groups, etc., advocated and spoke out against pollution and how the city was cleaned.	Day2 We finally arrived at Kumamoto and started filed work about Kumamoto earthquake and volunteerism. In the first place, we got a lecture about Kumamoto earthquake and its correspondence at Kumamo... 続きを読む  
プログラム 4 日目についての発信(ブログ) 北九州がどのように環境に配慮した技術を取り入れ、緑を育てた活気あふれるグリーンシティになったかを学びました。(1960年代この街は大気汚染の汚れた街でした。)	プログラム 2 日目についての発信 (Facebook) ついに熊本に到着し、熊本地震とボランティア活動の学習が始まりました。まず初めに、熊本地震と地震に関連する内容の講義を受けました。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

 The diagram shows the 'JENESYS Youth Online Forum' as a central hub. It branches into three main functions: 1) Propose to JICE to put on JENESYS website: http://sv2.jice.org/jenesys/; 2) Opportunity to upload future features: 1) News articles, 2) Youtube videos; 3) Serves as an archive for future JENESYS generations. A screenshot of the JICE website is also shown, with a red box highlighting the 'JENESYS Youth Online Forum' link in the header.	 In 10 Years - Partnerships made between ASEAN countries and Japan would help reduce the economic problems and the economy of the region will progress as a whole. - Majority of students from the rural areas will be given better access to quality education and school facilities and contribute in the growth and development of their respective countries and the Asia economy.
アクション・プランの発表 1（テーマ：自然災害） JICE の HP 上に「JENESYS Youth Online Forum」のページを作成してもらい、防災に関するボランティア活動の告知や報告、セミナー等の情報共有プログラムの開催、SNS を活用した情報発信の共通プラットフォームとして活用する。それによって、ASEAN 諸国と日本の絆や協力関係を強化する。	アクション・プランの発表 2（テーマ：経済開発） ASEAN と日本の協力関係により経済問題の軽減を促進し、ASEAN 地域全体の経済を発展させる。 農村地帯の多くの学生が高等教育を受け学校の施設に行きやすい環境を構築し、アジア経済及び諸国の成長と発展に寄与する。
 CONTENT Focus Areas - Waste Management - Plastic Pollution/Waste - Carbon Footprint Solutions - New Campaign Ideas - Improve Existing Campaign Ideas - JASEAN - Education JENESYS 2017	 What the plan is and How to execute it - First hand observations and experiences from each country - Analyse and Improve - Feasible recommendations and solutions - Key stakeholders
アクション・プランの発表 3（テーマ：環境問題） ゴミ管理・プラスチック汚染・カーボンフットプリントに関し、現存するキャンペーンや新たなキャンペーンを活用し、啓発する。J-ASEAN のネットワークを使い、教育する。	アクション・プランの発表 4（テーマ：地域における社会活動） プログラムを通じて得た経験や気づきを自国のコミュニティに紹介する。最終的な目標は、JENESYS プログラムを紹介し、自国の社会活動や発展のために有益な情報を発信していく。